

## 自己評価報告書

平成23年 5月 10日現在

機関番号：32636

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520522

研究課題名(和文)第二言語の読みにおける下位スキルの発達が理解度に与える影響

研究課題名(英文) How developing lower identification skills affects reading comprehension performances in L2

研究代表者

田口 悦男 (TAGUCHI ETSUO)

大東文化大学・外国語学部・教授

研究者番号：60255974

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：英語、言語学、第二言語習得、L2 reading, Reading fluency

## 1. 研究計画の概要

本研究プロジェクトの目的は第二言語における読みにおいて単語認知等の読みの下位スキルの発達が理解に関わる上位スキルとどのような関係にあるかを解明することであった。2011年度は本プロジェクトの最終年度にあたり、これまでの研究成果を公表すること、および、本プロジェクトの結果に基づき、まだ、解明されていない下位スキルと上位スキルとの関わりについてさらに、研究を進める。具体的には、読みの流暢さ (reading fluency) が第二言語による読みにおいてどのような役割を果たすのかを調査するために、web 上で行う RR の教材開発の準備を進め、教材の質や手順の均一化などを図る。これにより、より信頼度の高い量的研究を行うことが可能になる。今後は国内・海外との共同研究・協力を進める予定である。

## 2. 研究の進捗状況

第 15 回国際応用言語学会世界大会において第二言語運用能力の高い読み手に Repeated Reading (RR) がどのような影響を与えるかについて発表し、それを論文にまとめた原稿を 2010 年 8 月 29 日に外国語によるリ

ーディングの学術専門誌である Reading in a Foreign Language 誌に投稿した (Taguchi, E., Gorsuch, G.J., Takayasu-Maass, M., & Snipp, K. (2010). Assisted repeated reading with an advanced-level Japanese EFL reader: A longitudinal diary study. Manuscript submitted for publication.)。その審査結果が 2011 年 1 月 27 日に示され、修正の後、再投稿を求められ、現在、修正原稿を準備している。本論文は RR に関して、質的アプローチを中心にしながらも、黙読時間やテストスコアなどのデータを絡めた量的アプローチも融合させて、読みの下位スキルと上位スキルの相互作用を調べようとする試みであり、理解度が保証される高度なスキルを持った読み手については自動化理論 (LaBerge & Samuels, 1974; Samuels, 1994) が当てはまる可能性を示唆する結果となった。

## 3. 現在までの達成度

本研究プロジェクトの目的は、第二言語による読みにおいて単語認知などの下位スキルがメタ認知スキル等を含む、読みの理解に関わる上位スキルとどのように関係しているのかを、Repeated Reading (RR) の効果を

検証することによって明らかにすることである。本研究プロジェクトの成果である diary study の結果では、理解度が保証される高度なスキルを持った読み手については自動化理論 (LaBerge & Samuels, 1974; Samuels, 1994) が当てはまる可能性を示唆することとなったが、diary study の質的アプローチではその結果を一般化することはできない。そのため、本研究プロジェクトの研究成果に基づき、今後は量的アプローチを採用できる研究環境を整え、まだ解明されていない下位スキルと上位スキルの関係をさらに調査する予定である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

従来のアナログ形式の教材 (カセット・テープや MD など) を使用した RR ではデータ収集や協力者・共同研究者との連携などにおいて教材の質や手順の均一化などを図ることが難しく、そのため、まとまったサンプル数を用いた量的な研究を行うことができなかった。次の研究ステップとして、今後は本研究の結果をもとに、教材の質を保証し、手順を均一化できる web 上で行う RR の教材開発を進め、国内、海外との共同研究・協力を進める。教材の作成・編集については 2010 年度より作業を開始しており、同時に、RR の効果測定のためのテスト開発も研究分担者の奥田、リーと共に進めている。事前テスト、事後テスト、遅延テストの開発とその等価性の検証を行い、過去の研究で問題となっていたテストの等価性を事前に確認した上で実験を進める予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

Gorsuch, G.J., & Taguchi, E. (2010). Developing reading fluency and comprehension using repeated reading:

Evidence from longitudinal student reports. *Language Teaching Research*, 14, 27-59. 査読あり。

Abe, E., Shimizu, S., Okuda, S., Ishizuka, M. & Ueda, M. (2010). The voices of teachers: Encounters with demotivated students. Selected Papers from The 19th International Symposium on English Teaching. 163-171. 査読あり CD 版。

Gorsuch, G.J., & Taguchi, E. (2009). Repeated reading and its role in an extensive reading programme. In A. Cirocki (Ed.), *Extensive Reading in English Language Teaching* (pp. 249-271). Munich, Germany: LINCOM EUROPA Studies in Second Language Teaching.) 査読あり。

Gorsuch, G.J., & Taguchi, E. (2008). Repeated reading for developing reading fluency and reading comprehension: The case of EFL learners in Vietnam. *System*, 36, 253-278. 査読あり。

奥田祥子 (2008) 「幼児の英語語彙の習得・忘却・再習得の関係」 『大東文化大学外国語学部創設三十五周年記念論文集』 大東文化大学 査読なし

[学会発表](計 2 件)

Abe, E., Ishizuka, M., Okuda S., Shimizu, S & Ueda, M. The voices of teachers: Encounters with demotivated students. 2010 年 11 月 13 日 The 19th International Symposium on English Teaching-Methodology in ESL / FEL Research and Instruction. PAC-ETA 台北

Ueda, M., Agawa, T., Shimizu, S., Abe, E., Sano, F., Okuda S., Ishizuka, M. & Carreira-Matsuzaki J. How do Japanese students overcome their feelings of demotivation toward English study? 2010 年 8 月 22 日 関東甲信越英語教育学会 (KATE) 筑波大学